

歴史資料の入手について

橋本左内自筆書幅



人間自有適用士天下
何無可為時 書似
村田兄 景岳

【書き下し】

人間 自ら適用の士有り

天下 何ぞなすべき時無からんや

書して村田兄に似す 景岳

【現代語訳】

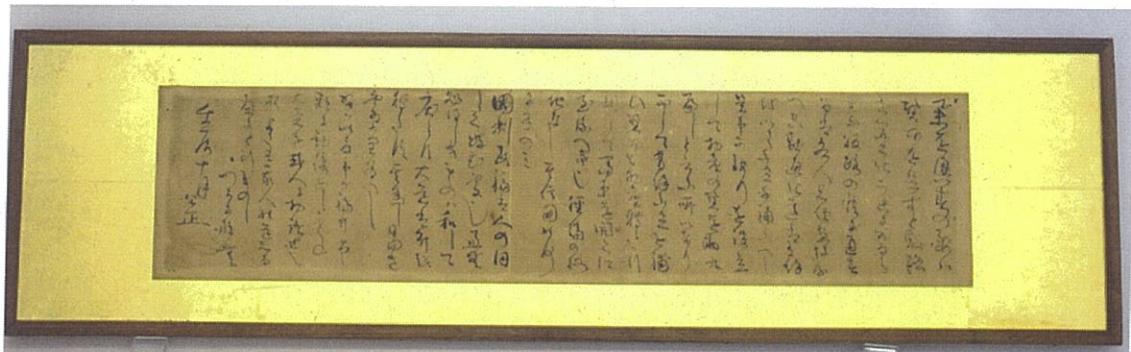
世間には必ずと有用の士がおり、

天下には必ず彼らが事をなすべき時が来るものだ。

歴史資料の入手について

由利公正筆扁額および巻軸（慶福寺旧蔵資料）

（1）由利公正筆扁額（「国利民福に就いて」）



「国利民福に就いて」

業を興すの要は資本を足すと販路を開くの一途に他ならず、販路の情に通ずるは各人の便宜によるへし、融通の道は有余を以て不足を補ふへし、是予か銀行を設立して物産の資を助くへしと云ふ所以なり、而して有余不足を補ひ、資本と物産転々相利用して、富原を開くに至るべき也、経緯の術他なし、其信用如何に有のみ、

國利民福は人の同しく好む處也、慮む處同しきものは和して戻らす、大道は弁を待たず、其為し易き處より為へし、

右は此度予か福井市郡に勧誘せしことの大意を或人に物語せし折、またも我人の道しるへにと斯ものしつるになむ

壬辰十月
公正

【現代語訳】

「国利民福に就いて」

事業を興すのに重要なことは資本を増やすことと販路を開くことの二つの方法に他ならない。販路の事情に通じるのは各人の便宜によることだろう。対して、融通の方法は有余をもつて不足を補うことである。これこそ私が銀行を設立して物産の資を助けるべしと主張する所以である。そうして有余が不足を補い、資本と物産が転々と互いに利用しあって、富原をもたらすに至るだろう。経緯の手立ては他なく、その信用如何にかかるつている。國利民福（國家の利益と国民の幸福）は人びとが同じように望むところである。思うところが同じものは和して離れない。正しい道は議論するまでもなく、その為しやすいところから為せばよいのである。

右はこの度私が福井の市郡で勧誘したことの大意をある人に語ったときに、またもあなたの道しるべとして、このように記したのである。

壬辰（明治二十五年）十月
公正

【徳教論】

大凡國家の制度は文武の道備

りて茲に大成す、而して之が素養を
為すもの道徳の教へに外ならず、散

して忠孝となり、結むて風俗とな

る、教化の及ぶ処、豈天ならずや、

我国の教え古來神儒仏の三

道あり、此二の者其奥を極むれ

は至誠無我、渾て天性に帰す、

噫々尊き哉、人の生ある唯々

人事を了すべきのみ、人事を

尽せば天道に適ぶ、天道に合へ

は大義を明にす、人意は忍ふ

へからず、之を尽せば人情に通す、

人情に達すれば風俗を詳にす、
國家の良民となり、國家と好惡を

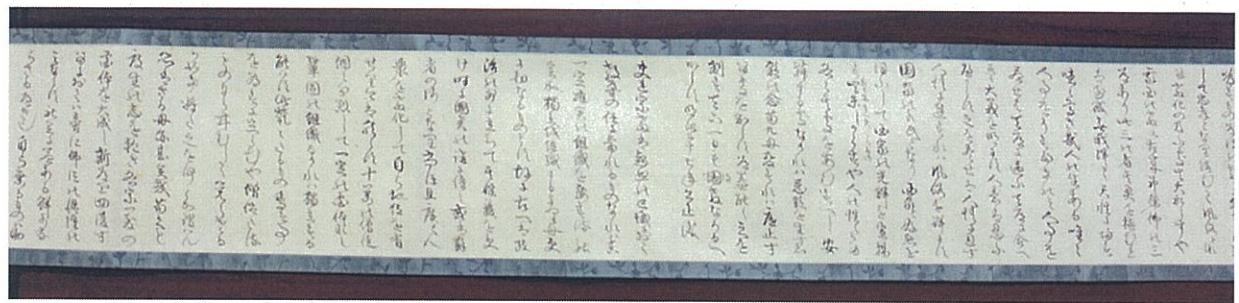
同ふして、國家の光輝を宣揚
私も亦其一夫たるもの

す、豈薬しからずや、人の性たる
各々其処を安むすべし、安

むする処なれば忌疑を生す、忌
疑の念苟くも発すれば底止す
る処を知らず、道義能く之を

徳

制す、天下一日も國教なかるへ
からす 明治二十七年 公正識



【現代語訳】

【徳教論】

おおよそ國家の制度は文武の道が備わつたときに大成する。加えて、この素養を為すものは道徳の教えに他ならない。散じたときは忠孝となり、結んだときは風俗となる。教化の及ぶところがどうして大きくな

だろか。我が国の教えは古來より神儒仏の三道がある。この三道はその奥義を極めれば至誠無我、すべて

天性に帰すところである。なんと尊いことだろ。人として生を受けたものはただ人事を了すべきのみである。人事を尽せば天道に適う。天道に合えば大義を明らかにする。人心を忍んではならない。これを尽せば人情に通じる。人情に達すれば風俗を詳らかにする。國家の良民となり、國家と好惡の考えを同じくして、國家の光輝を宣揚する。私もまたその一夫たるもの、これがどうして楽しくないだろうか。人の性たるものは各々がその居場所を安定させたいだろ。安定するところがなければ忌疑を生じる。忌疑の念を少しでも発すれば止むことを知らない。しかし、道義はこれを制することができる。天下に一日も徳教がないといふことがあつてはならない。

明治二十七年 公正識

【宗教談】

夫れ宗教は超然の区域に於て
教導の任に当れるものなれば、其
一定確實の組織を要する。社
会が独立を組織するよりも更
に切なるものとす、故に古へは政
治の外に立ちて其保護を受
け、時に国君の講を侍し、或は霸
者の師となり、尚ほ且広く人
衆を強化して自ら地位を有
せり、今は然らず、十万の僧徒
個々分裂して一定の団体なし、
鞏固の組織なけれは独立する
能はず、此等々たるもの焉そ事
を為すに足らむや、僧侶たる
もの自ら甘むして覺らざる
か如き、將た之を何とか謂はん、
惑はざるも亦甚実哉、苟くも
度生の志を抱き、各宗一致の
団体を大成し、斯道を回復す
るに於ては、啻に仏法の興隆の
みならず、社会に益ある鮮少な
らざるへき也、自ら棄るものは助
くへからず、自ら「しるものは救
へからず、豈顧慮せざる幫けむや

明治二十七年 公正

【現代語訳】

そもそも基督教は超然の区域において教導の任に當るものなので、その一定確實の組織を必要とする。社会が独立を組織することよりも更に大切なものである。故に往昔は政治の外に立つてその保護を受け、ときには國君の侍講となり、あるいは霸者の軍師となり、なおかつ広く人衆を強化して、自然と地位を有していた。今はそうではない。十万の僧徒は個々に分裂して一定の団体はない。強固な組織がなければ独立することはできない。この頼りないようすがどうして事を為すに足るだろうか。僧侶たるものは自ら甘んじて覺らないかのようである。またこれを何と言えるだろうか。惑わないこともまた眞実なのだろう。しかし、かりにも度生（苦しむ人びとを救うこと）の志を抱き、各宗一致の団体を大成し、この道を回復しようとする」とは、ただ仏法の興隆のみならず、社会に与える利益はわずかでないはずである。自ら棄てるものは助けるべからず。自ら「しるものは救うべからず。どうして顧慮しないものが助かるだろうか。

明治二十七年 公正

○「橋本左内自筆書幅」、「由利公正筆扁額および巻軸」一般公開予定

・幕末・維新期の本県ゆかりの偉人を紹介する展覧会

日程 平成30年 時期未定

場所 歴史博物館

歴史資料の入手について

紙本著色 小浜城下蘇洞門景観図 1巻

○小浜城と小浜藩御座船（御座船の絵は唯一）

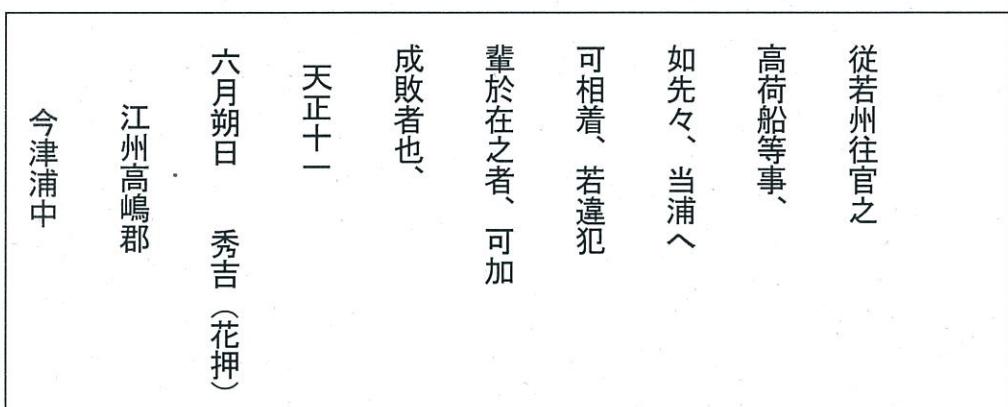
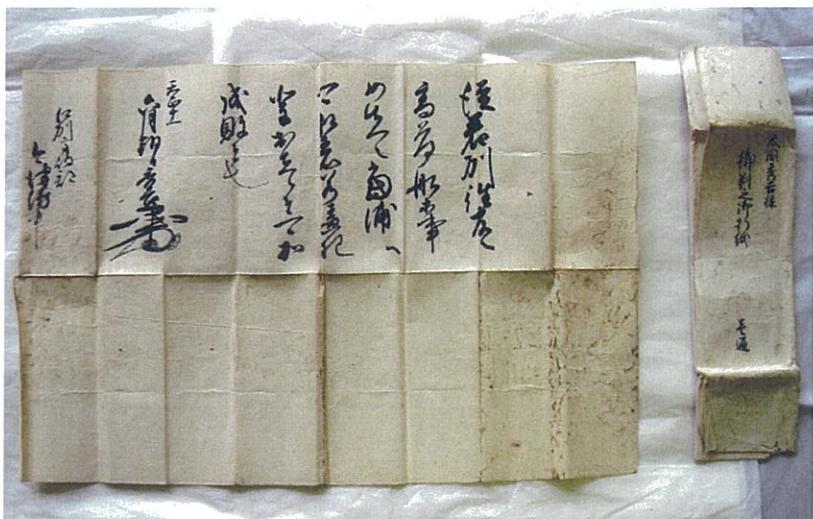


○蘇洞門景観（江戸期の唯一の絵）

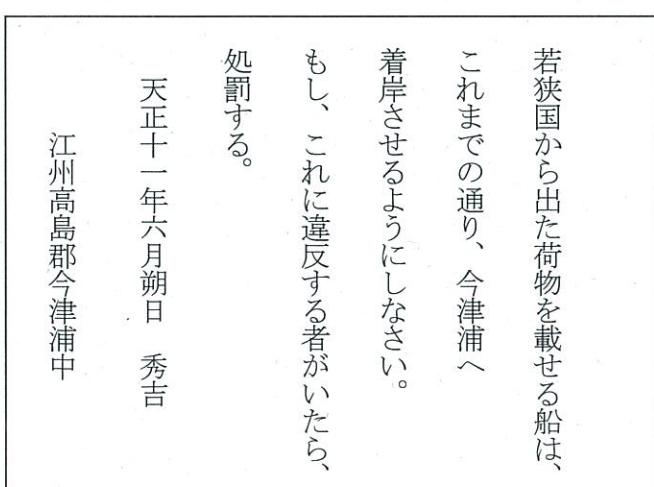


歴史資料の入手について

羽柴秀吉判物（豊臣秀吉書状）



【現代語訳】



○「小浜城下蘇洞門景観図」、「羽柴秀吉判物」一般公開

日時 8月13日（土）～8月31日（水）

場所 若狭歴史博物館

担当：文化振興課